

No.
123

北里大学病院ニューズレター
「窓」

Mado



診療科紹介 小児科

大学病院とこども病院との融合
－こどもの理想の医療を目指して－

診療科紹介

小児科

大学病院とこども病院との融合

—こどもの理想の医療を目指して—

北里大学病院 小児科 主任教授
北里大学病院 周産母子成育医療センター
小児成育部門 小児科長

石倉 健司

大学病院のなかにあるこどもの専門病院

当院の小児科はフロア型小児病院として、こどもの専門病院を大学病院のなかで作ることで、こども病院、大学病院双方の良い部分を取り入れた小児医療を行っています。具体的には、当院のこどもの入院医療は、在宅医療を除き6階のワンフロアに集約されています。そして周産期の医療を含め、6階全体が「周産母子成育医療センター」として整備されています。小児病棟内はこども用に設計され、かかわるスタッフもみなこどもの専門家です。

また、当院全体の病床数は1130床(フル稼働で1200床)と本邦でも有数の規模であり、小児系の病床数も多く、PICU(小児集中治療室)、NICU(新生児集中治療室)、GCU(新生児治療回復室)、在宅を含め104床あります。特にNICU、PICUは規模・設備ともに非常に整っていて、新型コロナウイルス感染症の治療で注目されている体外式膜型人工肺ECMO(エクモ)による治療をこどもに対して行える数少ない施設です。

大学病院の良さを活かしたこども病院

大学病院内のフロア型小児病院である当院周産母子成育医療センターならではの長所とは、大きく以下の三点が挙げられると思います。

一つ目は、大学病院は国立高度専門医療センターとともに日本の最先端の医療を担っているということです。我々の小児科も、大学病院ならではの様々な高度医療を行っています。さらに小児科の治療は、成人に行われる最先端の治療法が次第に小児科に応用されることで発展することもしばしばです。同じ大学病院内であればそういった治療もより積極的に行われやすく、さらなる発展につながります。

二つ目は、臓器別ではなく一人のお子さまをトータルに治療することができることです。例えば腎臓の病気になるお子さまは、心臓の調子も悪いということが多くあります。そういう場合は、様々な専門家間の連



携が必要になります。通常のこども病院の場合は、一般的な総合病院と同じく臓器によって診療科が分かれています。一方当院周産母子成育医療センターでは、一つの小児科という組織の中に、腎臓、心臓、神経などそれぞれの専門家がいて、よりコミュニケーションが取りやすい環境があります。実際当科では毎朝小児科スタッフ全員による小児科総合カンファレンスを行い、新しく入院する全患者さんの情報を共有し、議論を深めています。

そして最後に大学病院は教育機関でもあるので、毎年フレッシュな人材が入ってくることが挙げられます。常に新しい文化が組織に入ってきてエネルギーに溢れた環境になることが、ここで働くすべてのスタッフに良い刺激を与えていると感じています。私をはじめとした年長者も教育者として襟を正さねばいけないと思いますし、若い医師に刺激を受ける、教えられることも多々あります。

このように我々は大学病院とこども病院の良い部分を融合させ、より良い医療を提供しています。

縦と横のつながりでこどもの成長と健康管理を

我々は「縦と横のつながり」を意識して、こども達の健康管理を行っています。

こども達の将来を見据えて、次世代につながる健康管理をしていくこと、これが「縦のつながり」です。相模原エリアは人口72万人の政令指定都市であり、さらに我々の診療圏はより広く約200万人の地域をカバーしており、こどもの数も約30万にもなります。この多くのこどもたちの健康と成長・発達を支えるのが、当院の周産母子成育医療センターです。我々は「成育医療」と呼んでいますが、お産から、赤ちゃん、学童、思春期、そして次世代へとつなげ、また成人して小児科から成人の内科に移行していくまでを担っています。赤ちゃんが生まれてから成人するまで、単に調子が悪い時の一週間、一ヶ月の治療だけではなく長い時間をかけて、たとえ病気があっても可能な限り自立できるこどもを



てていくことが、私たちの使命です。

そして病気を臓器としてみるのではなく、それぞれの専門分野に精通したスタッフが垣根なく集まって、一人の患者さまとして総合的に診療することが、「横のつながり」です。この横のつながりをもって、縦のつながりを強くより良いものにしていきたいと思っています。

最後になりますが私が着任した時以来強く感じているのは、当院には「誠実・熱心・親切」な気風があり、それを体現するスタッフがそろっているということです。こうしたスタッフとともにより良い小児診療にまい進していく所存です。



小児科 HP

私の専門分野 北里大学が中心となった小児慢性腎臓病の全国コホート研究

コホートとは日本語で集団の意味で、コホート研究とはある対象（集団）を一定期間追跡し、そこから得られるさまざまなデータを分析していく観察研究です。10年前から継続的に厚生労働省の科学研究費補助事業として小児慢性腎臓病（以下、小児CKD）のさまざまなデータを追跡的に分析していく研究の研究責任者をしています。未解明な点が多かった小児CKDですが、研究を進めることで徐々に実態が明らかになってきました。研究結果は多くの学術論文に報告され、診療ガイドラインや新たな治療に生かされています。こうした研究がさらなる患者さまの治療に還元されるように、日本の小児CKD治療の中心施設として、診療・研究を続けてまいります。

地域の先生方へ

いつも患者さまをご紹介くださりありがとうございます。腎臓疾患治療の充実を図っておりますので、そのような患者さまがございましたら是非ご紹介ください。責任を持ちましてしっかりと引き継いで治療してまいりたいと思いますので、今後も連携にご協力お願いいたします。

Profile / 石倉 健司 (いしくら けんじ)

- 1993年3月 慶應義塾大学医学部 卒業。東京都立清瀬小児病院腎臓内科、東京都立小児総合医療センター腎臓内科の医長を経て、2015年3月 国立成育医療研究センター腎臓・リウマチ・膠原病科 医長、2018年6月 同 診療部長。2019年3月 北里大学医学部小児科学 教授、4月 北里大学病院周産母子成育医療センター小児成育部門 小児科長。
- 医学博士、日本小児科学会（専門医・指導医）、日本腎臓学会（腎臓専門医・指導医）、日本移植学会（移植認定医）、日本透析医学会（専門医）

北里大学病院 眼科外来の事前案内サービスの開始について

当院眼科では、多くの患者様を紹介いただいております。慢性的に外来が混雑し、長時間の待ち時間が常時発生しております。待ち時間の短縮、また、昨今のCovid-19の感染防止の観点からも院内での「密」な状況を避け、滞在時間を短くするために、2020（令和2）年7月より、初診の患者様の事前案内サービスを開始いたしました（10歳以下の弱視斜視の患者様については従来と同様、医療機関からの完全予約制です）。

ご紹介いただける患者様には診療情報提供書をお渡しいただくとともに、患者様より事前案内の手続きをお取りいただくようご説明ください。

連絡先

☎ 042-778-8855（電話予約センター）

受付時間：平日8：30～17：00、土曜日（第1、3、5）8：30～12：00

北里大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来への患者様のご紹介について

当院耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、新規の患者様や入院件数・手術件数の急激な増加により、紹介患者様ならびに予約の再診患者様の待ち時間が非常に長くなっております。特定機能病院として担うべき高度先進医療を要する患者様への適切な診療体制維持が困難な状況になることを懸念し、2020（令和2）年8月より原則的に紹介外来制を取らせていただいております。そのため、紹介状のない初診・再初診の患者様におかれましては、かかりつけ医の受診をご案内させていただくこととなります。

ご紹介いただける患者様には診療情報提供書をお渡しいただきますようお願いいたします。

外来受診および入院に関する相談について（医療機関専用窓口）

病院・診療所からの外来受診および入院に関する相談の専用窓口を、トータルサポートセンターの看護師が担当いたします。ご相談につきましては、下記へご連絡いただきますようお願いいたします。

電話番号

☎ 042-778-8971（直通）

対応時間

月～金 8時30分～17時
土（第1・3・5） 8時30分～12時

※上記以外の日時は病院の代表番号へご連絡ください。

☎ 042-778-8111（代表）

〈お願い〉

- 外来受診および入院に関する相談の際は、診療科をご指定いただきますようお願いいたします。
- 複数診療科の調整を要する場合等は、返答までに時間をいただくことがございますので、ご理解の程お願いいたします。
- 当院にて診断や治療方針が確定し、医学的にも他院での診療が可能と考えられる患者様につきましては、ご紹介いただいた医療機関、あるいは近隣の病院、診療所等で治療、療養の継続をお願いしております。